

道頓堀やきそば誕生!

大阪の名店の店主たちと日本コナモン協会が協力して開発された「道頓堀やきそば」。焼そばはお好み焼、たこ焼と共に「鉄板コナモン御三家」の一つと言われますが、他と決定的に違うところがあります。「生地」で作るのではなく、製麺された麺を使う点。大阪ではコナモンの生地にはダシを入れ、旨みを隠し味にします。そこで道頓堀やきそばは調理の過程でだしツコミし、麺をもっちりとしあげるのです。だしの旨みとソースの甘みが極太麺の味わいを高めています。



1.これまでにない「極太麺」!

一見、うどん? 大阪人好みの極太 中華麺!

2.「だしツコミ!」の鉄板技!

鉄板に広げた極太麺に、「だしツコミ」!。だしを含ませてよく焼くことで、もちもちのクセになる食感!

3.濃いけど、あと味スッキリ

「道頓堀ソース」

大阪人が大好きな、甘みと旨みと辛みの黄金比。だし&スパイスをきかせ、濃厚ながらもあと味すっきり。じっくり焼きあげた麺によくからみます!



関西で愛されて、7年目! 具材のアレンジで、お店ごとにおいしさいろいろ人気店の定番のおいしさ「道頓堀やきそば」を、新メニューに加えてみませんか?



提供店・募集中!



お店で出したい!イベントや催事で焼きたい!という方、その他「道頓堀やきそば」についてのお問合せは一般社団法人日本コナモン協会へお願いいたします。Eメールでのご連絡、お待ちしております!!

提供店舗

提供実績のある店舗は72店舗! 2018年12月現在

|                                                                                                                                  |                                                                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 関西                                                                                                                               | 関東                                                                                                                              |
| ●ひらかたパーク<br>●天多来(てんたくる)京橋店<br>●居酒屋 梅の湯<br>●お好み焼き 神明<br>●SHIMIZUYA<br>●TAKO-SHOW 阿波座本店<br>●もんじゃ&我孫子ワイン酒場 西屋<br>●ねぎたまパークス<br>●七五三屋 | ●ねぎと卵<br>●男はつらい! アムザ店<br>●八銭 難波店<br>●道頓堀クラフトビア醸造所<br>●串カツじゃんしゃん<br>●道頓堀店・難波店・相生橋店<br>●丸かつ屋さんみや<br>●新世祥しゃんしゃん梅田店<br>●なんでんねん 北新地店 |
| ●とみや<br>●とん平<br>●こんご<br>●豊夢<br>●楽彩<br>●キアレソ<br>●創作鉄板焼 陸奥<br>●開花亭<br>●たこ焼き工房 Sea&Sun                                              | ●天多来 京橋店<br>●お好み焼 もんじゃ焼 古々路<br>●竹の家<br>●鉄板焼 海<br>●お好み焼 きじ 梅田スカイビル店<br>●初もん屋とん平 江坂公園店・東三国店<br>●わのわカフェ<br>●玉屋<br>●お好み焼 ひかり        |
| ●お好み焼・鉄板焼 花らんまん<br>●宮崎郷土料理とぎやん<br>●お好み焼 鉄板焼 まま家<br>●虎虎鉄板 大阪日本橋店<br>●てこふき<br>●たこ正<br>●M's キッチン                                    | ●福太郎 東京ソラマチ店<br>●なでしこ<br>●ばんぶう<br>●てるちゃん<br>●めっせ熊 東京店<br>●洞良興(どうらく)<br>●釜たけうどん めっせ熊<br>●ラーメン川崎アザシ店<br>●串かつ 煮込み 炙り どんかん          |

幻の今里焼きそば復活 —「長谷川」開店

1949(昭和24)年頃、市電の終着駅から今里新地へ通じる街路として今里新橋通商店街は賑わっていました。浪花節の定席もあり、当時の賑わいが偲ばれます。この中に[松月][みゆき]という2軒の焼そばのお店があったといえます。いずれも人気で、塩・コショウで炒めた牛肉と玉ネギを合わせて焼いた極太麺の焼そばに客が自分でソースをかけて食べるスタイルの焼そばは周辺に住む人たちのソウルフードでした。しかし1990年に立ち退きのため両店とも閉店。「今里焼そば」は一度、ここで絶えてしまいます。子どもの頃、この焼そばを食べていた長谷川秀次さんは大人になって焼そばのことを思い出し、無性に食べたくなったといいます。しかしもう店はなく、ならばと自身の記憶とかつてのお客の舌を頼りに再現したのが「長谷川」の今里焼そばです。



ソース焼きそば誕生

ソース焼きそばは大正期に誕生、屋台ができるほど人気だったと言います。戦後の食糧難で小麦粉が輸入され、麺類が多く消費されるようになると、各地のお好み焼店、惣菜店などで、独自のソース焼きそばが編み出され、ご当地焼きそばへと発展していきました。



焼きそばの歴史

お好み焼のバリエーションの一つとしてソース焼そばが誕生。この頃、ソース焼そば専門店「長谷川」が開業。具材はキャベツと揚げ玉で、お好み焼屋台の名残を残している。

●1949年(昭和24年) 今里焼そば(松月・みゆき)の2軒の焼そば店が、塩・コショウで炒めた牛肉と玉ネギを合わせて焼いた極太麺の焼そばに客が自分でソースをかけて食べるスタイルの焼そばは周辺に住む人たちのソウルフードでした。しかし1990年に立ち退きのため両店とも閉店。「今里焼そば」は一度、ここで絶えてしまいます。子どもの頃、この焼そばを食べていた長谷川秀次さんは大人になって焼そばのことを思い出し、無性に食べたくなったといいます。しかしもう店はなく、ならばと自身の記憶とかつてのお客の舌を頼りに再現したのが「長谷川」の今里焼そばです。

●1950年(昭和25年) 大阪・東三国の「天笑屋」・千葉・柏の「まるしょう」といった焼そば専門店が開店したあたりから現在まで東阪で焼そば専門店の開店ラッシュが続いており、さながら「焼そばブーム」といった様相を呈しています。焼そばも他の鉄板コナモン同様、多くの人たちのさまざまな工夫で進化していくことでしょう。

●1953年(昭和28年) 秋田県横手市でストリート太麺を特徴とする「横手やきそば」が誕生。現在では麺の上に半熟卵と玉焼をのせて「福神漬け」を添える。当時市内には「O」店舗での焼そばの店があったとい。

●1955年(昭和30年) 岡山県倉敷市藤山の「まや」食堂で出されていた、自家製味噌だれに鶏肉とキャベツで作った焼そばが「ひるぜん」焼そばのルーツと言われる。

●1957年(昭和32年) この頃、宮城県石巻市にて製麺業者・菅原春彦氏が独自の麺・中力粉を使い、「二度煮」して茶色い「製法」を他業者に伝授。この麺を使用した焼そばが市内に広まる。これが後、「石巻焼きそば」と呼ばれる。

●1960年(昭和35年) 青森県黒石市の中郷地区にあった「美満寿」で、黒石独自の太麺で作られた「黒石やきそば」が「つゆ」をかけて「現在の黒石つゆやきそば」のルーツ。が完成される。その後、黒石の「日清食品」で「黒石焼そば」の製造を開始。

●1964年(昭和39年) この頃、東京・浅草にて「福ちゃん」が開業。サンヨー食品がインスタント焼そば「アロハ」焼そばを発売。

●1975年(昭和50年) 大阪・駒川にて「寿々」が開業。寿々水産「アルド」焼そばが3人前を発売。2009年現在、日本で一番売れている焼そばは「アルド」焼そばだ。2011年に「マルちゃん」焼そばが誕生。また、食品が「カツ」焼そば「ベヤン」焼そば「やきそば」を発売。日清食品が「カツ」焼そば「日清焼そば」を発売。

●1976年(昭和51年) 東京・板橋にて焼そば専門店「あべい」が開業。大阪・今里にて焼そば専門店「長谷川」が開業。かつて途絶えた「今里焼そば」の味を店が独自に再現。神戸・長田にて「焼そば」が再開。冷凍焼そば「あべい」が開業。

●1977年(昭和52年) 静岡県富士宮市にて「富士宮やきそば」が設立。5月7日を「コナモンの日」と制定。日本コナモン協会。

●1978年(昭和53年) 青森県八戸市で開業された「第一」焼そば「八戸」にて「富士宮やきそば」が誕生。2011年に「富士宮やきそば」が誕生。

●1979年(昭和54年) 静岡県富士宮市で開業された「第二」焼そば「富士宮」にて「富士宮やきそば」が誕生。2011年に「富士宮やきそば」が誕生。

●1980年(昭和55年) 大阪・西成区にて焼そば専門店「焼そば」が開業。全国の「焼そば」を揃え、お好み焼・焼そば専門店「焼そば」が開業。全国の「焼そば」を揃え、お好み焼・焼そば専門店「焼そば」が開業。

●1981年(昭和56年) 千葉・柏にて焼そば専門店「焼そば」が開業。生麺焼そば。大阪・道頓堀にて焼そば専門店「焼そば」が開業。生麺焼そば。日本アークス展示会で道頓堀やきそばは登場。

●1982年(昭和57年) 道頓堀やきそばが首都圏で本格スタート。NHK「ジャパノジョー」で「道頓堀やきそば」が紹介。今和初の「コナモン」の日前イベント(大阪)はNGK前で「道頓堀やきそば」が振舞われる。NHK「ニュース」で「道頓堀やきそば」が紹介される。U.S.A.にて「道頓堀やきそば」が商品化。

2013(平成25)年以降、焼そば専門店の出店ラッシュ

2010年代になると、それまでお好み焼、たこ焼の脇役的存在だったソース焼そばが主役として注目されるようになります。2013年に大阪・東三国の「天笑屋」・千葉・柏の「まるしょう」といった焼そば専門店が開店したあたりから現在まで東阪で焼そば専門店の開店ラッシュが続いており、さながら「焼そばブーム」といった様相を呈しています。焼そばも他の鉄板コナモン同様、多くの人たちのさまざまな工夫で進化していくことでしょう。



富士宮やきそばがB-1グランプリ2連覇

富士宮やきそば学会(富士宮やきそば)のB-1グランプリでの2連覇をきっかけに、「焼そば」というメニューそのものが注目されるようになりました。これ以降、ご当地焼そばで町おこしを目指す事例が各地で顕著になります。第4回に横手やきそば、第6回にひるぜん焼そば、第8回になみえ焼そばを掲げる団体がゴールドグランプリを獲得。第1回八戸大会から全回、相談役として立ち合ってきた当協会熊谷(愛Bリーグ相談役)は、富士宮フードバレー構想から参加、2018年に他界した富士宮やきそば学会名誉会長、渡邊英彦さんの思いを引き継ぎ「ミッション・麺・ポッシブル」を使命として食べつづけます。

※富士宮やきそば学会については、Webサイト「コナモン探検隊」でも紹介

